

着色山水

1 晴れると

晴れると 山は乾いた
三角形の梢はいつせいにゆれはじめた
山の頂上から 砂ほこりをあげて
ある所で 岩が落下した
その前の日まで
梢を雨が抱きかかへて 一つづつなめてみた
何日も雨だった
いそがしく 早く たくさんの水をつれて
流れは山の間を下りて来る
岩は梢の間を 右に左にゆれ
岩が岩を崩して ずり落ちて 地ひびきをたて
流れの方に近づいたのだが
流れに近いあたりの 二本の太い木の根元が
がつしりと岩を受けとめた
静まった山間に 新しい危険が残り
しばらく渦を巻いてみたりしてみた流れも
やがて 水勢をととのへて 速さを増した

2 男と女を

男と女を追ひ立てる如く 次々と霧がおそつた
霧は霧にちがひないが 雲が帰つて来たといふわけだ
遠くの下の方に 白くはりついたやうに見える滝を
かき消しながら よちのぼつて帰つて来たのだ
女の靴にふみにじられて
赤土の上の弁当の経木とその上の紙
木は 風にゆれた
紙には弁当の製作年月日と時間のゴム印の数字
男は立つて 枝を折つた
枝は折られた所を境として
幹の残力は はげしく枝をもたげた
空にはね上り 空は青かつた 日の光が走つた
土ほこりも打ち沈んで かすかにとどろく滝の音
女の目には 西日を受けた男の腕が 血まみれに光つてうつつた

3 求めても

求めても 彼の 行方は知れない
雲はさまざまにひろがる
谷間にぐいぐい入りこんでふくらむ
彼は行方知れず
彼は 山を崩して取りのけ
片手で 木の根を掘り 川を動かす
平野に 旗を立てた家を置き
遠景に帆船を 二艘も三艘も 走らせる
海岸の波しぶきをあびる小さい岩も作る
煙草をふかしながら 首をかしげて考へる
親指を谷間に突き入れて穴を作り
自然 どこもかも 自然
仙人が腕をうしろに組みながらこちらを見てゐる姿も作る
花びらは散る 雪は塗りたくる
現出した自然の中に
彼は雲にかくれ 谷間を突き進んで
行方知れずになつた
そのあと
雲は さまざまにひろがる 煙草の煙のやうに